

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：23804

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2023

課題番号：20K21988

研究課題名（和文）アンドレ・ブルトンにおける1940年代以降の自動記述の視覚的・造形的性質

研究課題名（英文）Visual-plastic characters in automatic writings of Andre Breton since the 1940's

研究代表者

中田 健太郎（Nakata, Kentaro）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・講師

研究者番号：90727736

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、二つに分けて考えることができる。一方では、アンドレ・ブルトンのテキストにおけるオートマティスムの概念と実践の再検証を行なった。たとえば、『磁場』や『処女懐胎』といったブルトンの自動記述作品についての翻訳をつづけ、またそれらの解説執筆を行なった（それらは遠からず刊行される予定である）。

他方では、40年代以降のシュルレアリスム・グループにおけるオートマティスム概念の展開を、とりわけシュルレアリスムの雑誌などにおいて検証した。この面においては、イメージの領域にかんする、とりわけマンガの領域にかんする、いくつかの研究成果を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アンドレ・ブルトンの1940年代以降の自動記述（オートマティスムにもとづく詩的实践）について、その視覚的・造形的性質を中心に検討することを企図したものである。比較的論じられることのすくなかった、40年代以降の自動記述およびオートマティスムについて、分析の視点を提案することが、本研究の意義となる。

ブルトンの自動記述にかんする翻訳・解説の執筆をすすめたことには（その刊行は研究期間内には果たされなかったが）、一定の意義があったと考える。また、1940年代以降のシュルレアリスムについて、マンガを中心としたイメージの問題にかんする調査をすすめ、その一部を公表することができた。

研究成果の概要（英文）：The results of this research can be considered in two parts. On the one side, we reexamined the concept and the practices of automatism in texts of Andre Breton. For instance, we have continued the translation of Breton's automatic writings such as "The Magnetic Fields" and "The Immaculate conception", and we have worked on writing commentaries of those texts (which will be published at an early date).

On the other side, we examined the developments of the concept of automatism in the Surrealism group since the 1940's, especially in their magazines. At this side, we have published few of our results connected with the field of images, especially with the field of comics.

研究分野：フランス文学

キーワード：シュルレアリスム オートマティスム アンドレ・ブルトン 自動記述

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、シュルレアリスムの詩人アンドレ・ブルトン(1896-1966)における、1940年代以降の自動記述作品をめぐるものであった。自動記述とは、オートマティスムにもとづく詩的实践である。ブルトンの自動記述作品において、これまで研究の主な対象となってきたのは、『磁場』(1920)や『処女懐胎』(1930)といった20-30年代の作品集であったと言ってもいい。それについて、40年代以降のブルトンの自動記述作品にたいする研究は、相対的にすくなかった。

40年代以降のブルトンの自動記述作品が、十分に研究されてこなかった主要な理由として、ここでは二点を挙げる事ができる。一つには、40年代以降のブルトンのテキストにおけるオートマティスム論が、相当に散発的であり、容易には理解しづらいという事情がある。ブルトンの思想をめぐる、近年のもっとも網羅的な研究と言っていいエマニュエル・ルビオの著作(*Les philosophies d' André Breton*, 2009)も、1941年まででその調査に区切りをつけている。

その一方で、40年代以降のブルトンの自動記述作品が、イメージを増殖させていくような視覚的な性質をもっており、またときにはタイポグラフィなどの造形的要素をも含んでいるという事情がある。筆記主体の自動性を基準としてきたはずのオートマティスム論に照らして考えるかぎり、これらの視覚的・造形的要素は一見して不純なものであり、やはり評価することが難しいように思われる。

筆者自身のこれまでのオートマティスム研究の主要部分は、博士論文「アンドレ・ブルトンにおけるオートマティスムの概念とその実践」(2015)にまとめられている。そこにおいても、40年代以降のブルトンの自動記述にたいする調査・研究が、相対的に手薄になったことは否めない。そこで、ブルトンの40年代以降の自動記述作品について考えるためには、あらたな観点にもとづく研究が必要であると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は、これまでのオートマティスム理解においては不純なものとして軽視されがちであった視覚的・造形的要素について、むしろ積極的にとりあげることによって、ブルトンの40年代以降の自動記述・オートマティスムの性質を再検証することを目的としている。

20-30年代の自動記述作品については、言語と筆記主体の関係性に着目した研究が多く行われてきた(たとえば、以下の論文集が代表的なものとして挙げられる:*Une pelle au vent dans les sables du rêve*, 1992)。しかし、40年代以降の自動記述・オートマティスムについて再検証するためには、言語の問題にとどまらず、言語と造形の双方の文脈の交点において、オートマティスム論にたいする理解を更新していくことが必要だと考えた。

### 3. 研究の方法

以上の研究目的を満たすために、本研究は(当初の予定よりも研究範囲を広げ)おおきく分けて以下の二つの方面ですすめられた。一つは、ブルトンのオートマティスムの概念・実践の再検証である。もう一つは、40年代以降のシュルレアリスム・グループにおけるオートマティスム論の広がりを、イメージの問題とともに検討することである。以下にその概要を記す。

#### (1) ブルトンのオートマティスムの概念・実践の再検証

アンドレ・ブルトンのオートマティスムの概念・実践にかかわるテキストを、あらためて検証した。研究の狭義の主題となる1940年代の自動記述作品にたいする調査のほか、それ以前の自動記述作品や、造形的オートマティスムにかんする美術論のテキストをも分析の対象とした。

とくに重要だと考えられたのは、ブルトンが39年に提起した、「絶対的オートマティスム」の概念であった。この概念は、意識的判断にかかわらない、事物の自足的な自動性を念頭においたものとして、とらえることができる。この概念にもとづくなら、40年代以降のブルトンの自動記述作品は、筆記主体の自動性の問題としてのみならず、言語の事物的な(たとえば造形的な)自動性の問題としても、とらえることができるように考えられた。

また、シュルレアリスムにおける「展示」の問題との関係において、ブルトンの美術論について再検討する機会もあった。その観点においては、ブルトンにとっての「展示」の問題が、オートマティスム論における「擬態」の問題ともつらなっていたことの意義が、重要なものとして確認された。

#### (2) 40年代以降のシュルレアリスム・グループにおけるオートマティスム論の広がりの検討

40年代以降のシュルレアリスム・グループにおけるオートマティスム論について、文学的文脈と美術的文脈の交点において理解するための調査・研究を行なった。とりわけ、『プレッシュ』や『アルシブラ』などの、60年代のシュルレアリスム(およびポスト・シュルレアリスム)の機関誌を分析するなかで、言語とイメージを並置した、マンガ的ともとらえられる実践が多くなさ

れていたことの意義が確認された。

また、モーリス・アンリにかんする調査・研究をおこなった。モーリス・アンリは、シュルレアリスムのメンバーのなかで、もっとも著名なマンガ家と言える存在であり、1930年代から長きにわたって、一コママンガを中心とした作品を発表していた。彼のマンガ作品に焦点をあてることで、第二次世界大戦後のシュルレアリスムにおける言語とイメージの関係性というおおきな問題について、あらたな角度から検討した。

#### 4. 研究成果

上記の研究の方法にもとづく成果を、ひきつづき二つの方面からまとめて記す(とはいえ、この区分は便宜的なものであり、多くの成果は二つの方面にまたがっているものでもある)。

##### (1) プルトンのオートマティズムの概念・実践の再検証

アンドレ・プルトンの自動記述をめぐるテキストの読解をつづけ、シュルレアリスムおよびオートマティズムにかんする研究資料の収集・調査を行なった。また、プルトンの自動記述作品(『磁場』・『処女懐胎』)の翻訳やその解説執筆、自動記述にかんする先行研究となる論文集(*Une pelle au vent dans les sables du rêve*, 1992)の翻訳もすすめた(とはいえ、研究期間内に完成・刊行するには至らなかった)。

この方面にかかわる調査・研究の成果を総括する作業は、研究期間内には行うことができなかったが、今後の出版計画のなかで、順次その成果を公開していく予定である。

##### (2) 40年代以降のシュルレアリスム・グループにおけるオートマティズム論の広がりへの検討

40年代以降のシュルレアリスム・グループにおける機関誌の調査を行なった。また、第二次世界大戦後の芸術における、マンガを中心としたイメージの問題にかんして、調査・研究を広くおこなった。たとえば、講演「マンガにおける文学、あるいはマンガとしての文学」(「文学としての人文知」第7回、2021)は、その成果を含んでいる。また、本研究計画から直接企図されたものではないが、編著『マンガメディア文化論 フレームを越えて生きる方法』(鈴木雅雄・中田健太郎編、2022)の編集作業にも、こうした研究にかんする知見が活かされた。

マンガを中心としたイメージの問題にたいする研究は、さらにつぎのように展開された(以下にしめす成果は、科研費課題「シュルレアリスム以降の前衛芸術におけるマンガ表現について」の研究成果と重なっている)。まず、上記講演「マンガにおける文学、あるいはマンガとしての文学」の内容にもとづく論文執筆を行い、その初稿を完成させた(同論文は、水声社より近刊の論文集に収録予定)。また、論文「モーリス・アンリ、あるいはシュルレアリスムと一コママンガ」(『静岡文化芸術大学研究紀要』24号、2024)を執筆・発表した。また、講演「展示とレイアウト シュルレアリスムマンガの事情をめぐって」(「シュルレアリスム宣言100年記念講演会」、2024)では、プルトンの美術論のテキストを再検証しつつ、60年代のシュルレアリスム(およびポスト・シュルレアリスム)の機関誌におけるマンガ的イメージなどを分析した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中田健太郎	4. 巻 24
2. 論文標題 モーリス・アンリ、あるいはシュルレアリスムとマンガ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 静岡文化芸術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.69182/0002000124	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中田健太郎
2. 発表標題 マンガにおける文学、あるいはマンガとしての文学
3. 学会等名 文学としての人文知（第7回）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中田健太郎
2. 発表標題 展示とレイアウトーシュルレアリスム・マンガの事情をめぐって
3. 学会等名 シュルレアリスム宣言100年記念講演会（東京国立近代美術館）（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 鈴木雅雄 + 中田健太郎編、増田展大、三輪健太郎、鷲谷花、宮本大人、細馬宏通、成相肇、林道郎、伊藤亜紗、ドミニク・チェン、藤本由香里、西兼志、伊藤剛執筆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 479
3. 書名 マンガメディア文化論 フレームを越えて生きる方法	

1. 著者名 塚本昌則・鈴木雅雄編（執筆：中田健太郎ほか）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 -
3. 書名 未定（論文「マンガにおける文学、あるいはマンガとしての文学」掲載予定）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------